

評価の視点	評価対象施設	評価内容 <u>（★一指定期間10年としたことを踏まえた評価実施）</u>	評価材料（例）	プレゼンテーション説明内容の概要 (説明のポイント、評価してもらいたポイント等) ※事前に指定管理者が記入	評価 (○：優れている、○：標準的 △：改善余地あり ×：抜本的な改善が必要)						コメント欄	
					A評価員	B評価員	C評価員	D評価員	E評価員	G評価員	現状において評価できる点・課題点	今後の取組の方向 (強みを伸ばす、弱みを改善する方策等)
住民の平等な利用の確保	共通	利用者の平等な利用が確保されているか、一部の利用者への偏りはないか	・事業計画 ・事業報告 ・モニタリング評価結果 ・参考資料1～3 事業記録	・実篤記念館の利用者は入場者と事業参加者で、誰でも平等に利用できるように丁寧な受付対応で運営している。 ・申込制事業は、定員を超える応募があった場合には抽選を行うなど、公平な利用が保たれている。	○	○	○	○	○	○	<評価できる点> ・利用者アンケートの実施等により、要望等に対し、迅速な対応を図っている。	・積極的な動画配信やSNS活用は、遠方や障害者の方々など、多様な利用者へのサービス拡大・向上に繋がっている。今後の継続・発展が望ましい。
	共通	年齢や障害の有無に関わらず、誰もが利用しやすいように工夫している（バリアフリー対応等、福祉の視点を持った来館者への対応がなされているか）	・事業報告 ・モニタリング評価結果 ・参考資料1～3 事業記録 ・施設見学	・施設内の利用者エリアはバリアフリー構造である。小学校の教科書にもバリアフリー化された施設として紹介された。 ・高齢者の利用率が比較的高いため、福祉の視点にたち、休憩コーナーやトイレに杖たてや杖ホルダーを設置するなどの工夫をしている。また、申出により簡単な車を貸し出している。	◎	○	○	◎	○	○		
利用の促進及びサービスの向上に向けた取組	共通	利用者にとって分かりやすい施設利用案内や事業等に関する情報提供が行われているか。また、施設や事業等の情報について、広報誌以外の多様な方法で広報を行っているか。	・事業計画 ・事業報告 ・モニタリング評価結果 ・参考資料1～3 事業記録 ・ホームページ、ツイッター	・設置時期によって色やデザインが不統一であった誘導サイン（道案内看板）は、調布市都市計画課の許可を得て、英語併記の統一されたデザインに順次掛け換えを行っている。駅から迷わずアクセスできたといったコメントも少しずつ寄せられるようになった。 ・実篤記念館の施設や事業についての情報は、広報誌のほかホームページやツイッターを利用して発信している。 ・平成29年度より独自ツイッターを開設し、緊急性の高い情報から実篤に関する雑学まで、幅広い情報提供に努めている。利用者の関心を保つために機能的な発信を心がけ、フォロー数は10月末日現在で3136人と徐々に増えている。 ・テレビや新聞等からの取材依頼にも積極的に対応しており、令和2年度58件、令和3年度60件、令和4年度は10月末日現在で48件の対応実績があるほか、インターネット等への情報提供もこまめに実施している。 ・丁寧な利用案内を常に心がけ、館内掲示は、状況の変化に即応して交換している。 ・恒常的な仕組みとしては、アンケートを実施している（詳細は次項参照）。そのほかの取組としては、SNSにあげられたコメント等は逐次、職員で共有され、すぐに改善できることはそのつど対応している。 ・全アンケート結果を入力し、指定管理の月例業務報告に添付しているほか、主要なものには抽出し、年間の指定管理報告資料として、市とも随時共有している。	○	◎	○	○	◎	○	<評価できる点> ・施設のみならず誘導サインのデザイン統一化や英語併記など、芸術・文化施設の指定管理者として、幅広く取り組んでいる。 ・SNS等による情報発信等、新たなことにも取り組んでいる。 <課題点> ・今後、更なるデジタル化の方向に進んでいく中で、デジタル人材の確保・育成も必要。 ・要望等への対応状況については、定期的にホームページ等で利用者へ情報提供することも検討してみている。 ・新型コロナウイルス感染症流行により減少した利用者数を回復するための取組が必要。	・実篤記念館のツイッターについては、きめ細かい情報提供で、ますますの充実、更なるフォロー数の増加に努めて頂きたい。 ・HP上で実篤公園について入場が無料か有料か判然としなかった。分かりやすい案内に努めてどうか。 ・道案内看板統一化をより一層推し進め、アクセス性を高めていただきたい。 ・白樺派の他の作家に関わるHPやSNSとの連動を図ることで、情報提供の裾野を広げられる可能性があるように思われる。最終的に他館利用者を自館利用者として取り込むという野心を持って取り組んでいただきたい。 ・来場者アンケートについて、工夫を重ね、利用者の声の収集に一層努めていただきたい。 ・利用者の向上の一環として、無料開放日を設けるといった取組はコストベネフィットがある施策と考える。
	共通	利用者の意見・要望を受け止め、施設の管理運営に反映させる仕組みを有しているか。また、利用者の声について、市と適切な情報共有を図り、効果的・効率的な対応手法を市に提案する等、課題解決に向けて適切に対応できているか	・事業計画 ・事業報告 ・モニタリング評価結果 ・参考資料1～3 事業記録 ・参考資料4～6 アンケート集計	・利用者アンケートは、入場者用及び事業別の2種類実施している。 ・入場者用は過半数配付し、平均約10%強の回収率を保持している。「記念館の印象」項目は、毎年75%以上の方から「良い」の評価を得ている。 ・事業別のアンケートは、児童用・保護者用に分けて実施し、高い満足度を把握できるツールともなっている。 ・「市長へのはがき」の投票率も高く、そのほとんどが感謝や応援を表す内容となっている。 ・こうしたアンケート等の結果は、定期的に職員内で回覧され、すぐに改善できることはそのつど対応している。	○	◎	○	◎	○	○		
	共通	利用者アンケートを実施しているか。また、アンケート結果について結果は良好か。併せて、利用者ニーズを踏まえて対応の見直しや工夫など、利用者満足度の向上に向けた取組が行われているか	・事業報告 ・モニタリング評価結果 ・参考資料1～3 事業記録 ・参考資料4～6 アンケート集計	・利用者アンケートは、入場者用及び事業別の2種類実施している。 ・入場者用は過半数配付し、平均約10%強の回収率を保持している。「記念館の印象」項目は、毎年75%以上の方から「良い」の評価を得ている。 ・事業別のアンケートは、児童用・保護者用に分けて実施し、高い満足度を把握できるツールともなっている。 ・「市長へのはがき」の投票率も高く、そのほとんどが感謝や応援を表す内容となっている。 ・こうしたアンケート等の結果は、定期的に職員内で回覧され、すぐに改善できることはそのつど対応している。	○	◎	○	◎	○	○		

評価の視点	評価対象施設	評価内容 <u>（★指定期間10年としたことを踏まえた評価実施）</u>	評価材料（例）	プレゼンテーション説明内容の概要 （説明のポイント、評価してもらいたポイント等） ※事前に指定管理者が記入	評価 （◎：優れている、○：標準的 △：改善余地あり ×：抜本的な改善が必要）						コメント欄	
					A評価員	B評価員	C評価員	D評価員	E評価員	G評価員	現状において評価できる点・課題点	今後の取組の方向 （強みを伸ばす、弱みを改善する方策等）
	共通	施設の管理と事業の運営を一体的に行うことにより、事業の充実が図られ、施設の設置目的が効果的に達成されているか	・事業計画 ・事業報告 ・モニタリング評価結果 ・参考資料1～3事業記録	・武者小路実篤の顕彰を目的に展示を年間約8回実施し、設置目的に合った管理運営を行っている。 ・展示に関連した講座、イベント等でも館内で実施し、施設を活用して様々な事業を行っている。	○	◎	○	◎	○	○	<評価できる点> ・実篤記念館の展覧会活動については、その内容が高水準であることや継続性などの面で充実に高まっている。 ・指定管理期間の延長に伴い、特に教育現場との連携強化を図っているのは優れた取組である。今後にも期待。 ・オンラインでのイベント開催など、コロナ禍においても取組の工夫を行っている。 ・テレビや新聞等の取材に積極的に対応している。 ・スタンブラーなど、できる範囲のことに着手し、東部地域に偏らないよう市民における利用を広げている。 ・文化会館たづくりでの移動展の開催など、館外での展開にも取り組んでいる。	・これまでと同様、市の施策と連動した取組が展開されるよう、新たな基本計画事業等を踏まえた中で所管課と連携し、事業計画の見直しも含め取り組まれている。 ・実篤記念館には、立派な庭園（実篤公園）もあることから、市内施設と連携したツーリズムなども考えられる（参考：金沢市幹木大拙館の取組） ・館内の展示は、落ち着いた、品格ある展示と感じられる一方、年表の展示などは、インパクトに欠ける部分もあり、もう少しソフトな、あるいはユニークな展示方法があるとうよい。 ・これまでの実篤記念館の取組と同じ路線で継続していかれるかどうかは不透明に感じる。扱う範囲を徐々に広げていくとよい。 ・教育現場との連携の取組を行っていること自体の情報発信の強化により、当館への注目度を高めていっていただきたい。 ・昭和レトロへの注目が高まっている中、実篤公園を活用することで魅力ある事業の幅を広げる余地がある。 ・コロナ禍を経て、デジタル化への対応の強化は必要。デジタルガイド等を活用し、存在感向上や新たな収入源化を検討いただきたい。 ・現在も改修工事で閉鎖が続いているが、オンラインなどを活用し、今後も開館を前提としない事業運営を期待。
	共通 【せんがわ劇場以外】	企画から実施に長期間を要する新たな事業の実施や、長期的な視点による計画的・段階的な事業展開など、指定管理期間が10年間になったことを踏まえた事業の充実・成熟化が図られ、施設の設置目的が効果的に達成されているか（★）	・事業計画 ・事業報告 ・モニタリング評価結果 ・参考資料1～3 事業記録	・年間2回開催している特別展は、全国への調査や他館資料の借用、調整等で数年がかりの計画となる。 ・特に10年に一度の周年で行う「白樺」関係の特別展や、令和3年度の秋展、令和4年度の武者小路家についての特別展などは、財団の継続的な調査を基地とした上でのものであり、長期的な視点からより研究成果の高い展覧会が実施されている。 ・学連連携の取り組みとして、過去の教育普及事業を踏まえた教育現場との意見交換を行い、市内小学校教員・生徒へのアンケートを実施。その結果を元に、記念館事業を効果的に学校へ発信した。 ・調査から実施まで数年を要したが、学校教育の現状や展望を現場から直接聞くことで精度の高い事業発信が可能になるほか、学校担当者との長期的な関係の構築にも繋がり、若手教員研修の場として実篤記念館が活用されるなどの効果が上がった。 ・展示は約5週に一度内容を替え、それぞれ武者小路実篤を軸としつつ、年間で文学・美術・新しき村等の異なる展示テーマをバランスよく設定することによって、多岐にわたる業績を多角的に紹介している。 ・平成19年に初回を開催して以降、近年は隔年で文化会館たづくりでの移動展を開催しているが、こちらは社労状況や周年事業を鑑みたテーマでの開催とすることで、広く興味を持ってもらえるよう工夫している。 ・また、実篤公園での自然観察会や植物を利用した工作講座、記念館ボランティアによる園内ガイド等の実施によって、幅広い世代を対象とした教育普及・武者小路実篤の顕彰・市民交流の場としての活用を行っている。	◎	◎	○	◎	◎	◎		
	武者小路実篤記念館	武者小路実篤の活動が分かりやすく理解されるよう多角的に紹介し、また、館外においても移動展を開催するなど、魅力ある展示事業を実施しているか。あわせて、隣接する実篤公園を活用することによる相乗効果や事業展開が図られているか。	・事業計画 ・事業報告 ・モニタリング評価結果 ・参考資料1～3事業記録 ・ホームページ、ツイッター ・施設見学	・毎年夏の子ども向け展示では、パネルに平易な単語を使用しルビを振るなど、わかりやすい解説を実施している。特に令和4年度は解説に加えパネルにイラストをつけることで、視覚的な理解補助へと繋がった。 ・全ての展示で、文字を1ポイント以上に設定した上で、角度をつけて設置するなど高齢者でも読みやすいパネルとなるよう努めている。 ・一方で外国人向けの解説としては、多言語パンフレットを作成しているが、利用機会が少なく、内容の改訂を検討中である。 ・広く公開している記念館データベースをきっかけに研究者や他館からの調査依頼にも積極的に対応しており、これらの成果が出版物として発行されることもあるなど、他機関からの専門性の高い利用者への対応も可能となっている。	◎	◎	○	◎	◎	◎		
	武者小路実篤記念館	展示資料のパネル解説について、子どもや高齢者、さらには在住の外国人の理解が進むような、わかりやすさを心がけるなど工夫するとともに、専門性を求める利用者の要求にも応じる水準を保っているか。	・事業計画 ・事業報告 ・モニタリング評価結果 ・参考資料1～3 事業記録 ・ホームページ、ツイッター ・施設見学	・毎年実施している解説シートの作成および市内小中学校への配布や、夏休み期間での館内事業を通じ、低年齢層への教育普及を進めるとともに、積極的に記念館を利用してもらえるよう働きかけている。令和3年度は学芸員による出張授業を行い、地理的に来館の難しい市内小学校施設に対しても高い水準の教育普及事業を行った。 ・ホームページの充実やSNSの活用を強化し、若年層がより親しんだツールでの情報発信を通じて利用促進に努めている。なおSNSでの発信は、新型コロナウイルス感染症流行による自宅待機期間を利用した「おうち時間で学ぼう」など、全国に向けた対応性の高い普及事業としても活用している。 ・特別展などでは市内福祉施設への積極的な広報活動を行っている。 ・ボランティアの育成と活動により、市民活動の充実を図る。 ・地域のスタンブラー事業への協力を通じ、ウォーキングや生涯学習の場として、高齢者層の利用拡大につなげている。	◎	◎	○	◎	◎	◎		
	武者小路実篤記念館	武者小路実篤について理解を深め、子どもから高齢者まで様々な世代に、身近で、親しみのある教育、芸術・文化の施設とするため、幅広く魅力的な普及活動が行われているか（次代を担う子どもたちへのアプローチと利用拡大や若年層の利用促進、高齢者層への更なる利用促進に向けた取組、東部地域だけでなく全市的にPRする取組等）	・事業計画 ・事業報告 ・モニタリング評価結果 ・参考資料1～3 事業記録 ・ホームページ、ツイッター	・「武者小路実篤・白樺・新しき村」およびその関連資料の収集に努め、収集した資料は情報を整理した上でデータベースに詳細に記録し、館内3ヶ所の収蔵庫内で保管している。 ・このように収集・保存した資料はデータベース上で管理し、広く情報を公開することで、館内職員は調査・展示のために効率的に利用することが可能となり、外部研究者等への情報提供にも資する。 ・収蔵品情報や映像・音源は、情報提供システムにより公開され、実篤の活動や収蔵品を知るための広域活用を行っている。 ・収蔵庫内および展示スペースは24時間体制での温度管理を実施、季節に問わず適切な環境設定となるよう努めている。 ・展示替えや年表の備品確認、隔年で行う収蔵庫内の構築消毒等の際には、学芸員が資料を直接確認している。	◎	◎	○	◎	◎	◎		
	武者小路実篤記念館	収集した作品・資料について、適切に整理がされ、良好な状態で保存・管理がされているか。また、収集した資料等を事業全般で有効活用されているか。	・事業計画 ・事業報告 ・モニタリング評価結果 ・参考資料1～3 事業記録 ・ホームページ（収蔵品データベース） ・施設見学	・「武者小路実篤・白樺・新しき村」およびその関連資料の収集に努め、収集した資料は情報を整理した上でデータベースに詳細に記録し、館内3ヶ所の収蔵庫内で保管している。 ・このように収集・保存した資料はデータベース上で管理し、広く情報を公開することで、館内職員は調査・展示のために効率的に利用することが可能となり、外部研究者等への情報提供にも資する。 ・収蔵品情報や映像・音源は、情報提供システムにより公開され、実篤の活動や収蔵品を知るための広域活用を行っている。 ・収蔵庫内および展示スペースは24時間体制での温度管理を実施、季節に問わず適切な環境設定となるよう努めている。 ・展示替えや年表の備品確認、隔年で行う収蔵庫内の構築消毒等の際には、学芸員が資料を直接確認している。	◎	◎	○	◎	◎	◎		
	武者小路実篤記念館	資料や作品の調査や研究に努め、より良い展示となるようになっているか	・事業計画 ・事業報告 ・モニタリング評価結果 ・参考資料1～3事業記録 ・ホームページ、ツイッター	・他館・個人への実物資料調査や、国立国会図書館をはじめとした文献調査を定期的に行っている。 ・日常的な調査に加え、令和2年度に実施した「白樺」に関しての特別展や、令和3年度「武者小路実篤と映画」展、令和4年度の武者小路家関連展示など、過去の調査の蓄積を欠けぬが、より発展・深化した研究となる展覧会を実施している。 ・企画展を含め、同じ展覧会を二度行わないという館のスタイルから、都度学芸員が資料調査を行い、新たな事業や見方を提案し、常により良い展示を目指している。	◎	◎	○	◎	◎	◎		

評価の視点	評価対象施設	評価内容 <u>（★一指定期間10年としたことを踏まえた評価実施）</u>	評価材料（例）	プレゼンテーション説明内容の概要 (説明のポイント、評価してもらいたポイント等) ※事前に指定管理者が入入	評価 (◎：優れている、○：標準的 △：改善余地あり ×：抜本的な改善が必要)						コメント欄	
					A評価員	B評価員	C評価員	D評価員	E評価員	G評価員	現状において評価できる点・課題点	今後の取組の方向 (強みを伸ばす、弱みを改善する方策等)
指定管理業務に関する収支の状況	共通	指定管理期間が10年間になったことを踏まえ、長期的視点での利用料金収入等の確保や支出の抑制についての取組（工夫・見直し等）が行われているか（★）	・事業計画 ・事業報告 ・モニタリング評価結果 ・参考資料1～3 事業記録	・長期的視点に立った魅力ある事業の提供、さまざまな媒体での積極的な広報活動により、認知度を高めることで利用者増、収入の確保を図っている。 ・機械整備や一部の保守点検等において長期的な契約を結ぶことで、費用の抑制及び契約業務の効率化を図る。 ・資材等の計画的な購入で費用の抑制を図る。	○	○	△	○	○	○	<p>&lt;評価できる点&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・実高手拭マスクや巾着・あづま袋、一筆箋、『白樺』マスキングテープなどの新たなミュージアムのグッズ開発・販売により自主財源の確保に努めている。</li> <li>・人気商品の限定チョコレートの販売数の増やふるさと納税の返礼品となるようなグッズ開発の検討の余地がある。</li> <li>・自主財源の活用方法について非常に好ましい。</li> <li>・補助金の獲得に向け積極的に取り組んでいる。引き続き、様々な団体等による補助金制度に関する情報収集を行い、資金獲得に努めていただきたい。</li> </ul> <p>&lt;課題点&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・実篤記念館のような収蔵品に特色のある館の場合、グッズ類の販売は単に収益の確保というばかりでなく、来館者サービスという点で極めて重要。もう一段の工夫の余地がある。</li> <li>・コロナ禍における補助金の獲得・活用は、他団体と比較しても前向きに取り組まれている。</li> <li>・事業報告の内容がわかりづらい。収支改善の分析が難しくなると考える。</li> <li>・市からの補助と人件費を合わせると、計1.2億円弱となっており、施設の規模に比して費用が大きいのと思われる。</li> <li>・新型コロナウイルス感染症流行により減少した利用者数を回復するための取組が必要。</li> </ul> <p>・指定管理期間延長に伴う大きなメリットのひとつは、新たな投資や計画的な修繕が可能になることである。これを機会に、新たな展示方法等への投資がなくてもよい。</p> <p>・今期の指定管理開始当初とは大きく異なる事業環境であることを受け、利用者数や収入基盤の確保等の事業目標再設定の必要性がある。施設への来館を必ずしも前提としない事業企画を検討する等、10年間の長期的経営下にあっても、足元の状況を踏まえて後期の5年後を見据えた中期目標設定及び進捗管理を期待する。</p> <p>・ミュージアムグッズのラインアップ強化を図る（オリジナル品のほか、他館グッズ等も）とともに、売上増加のためにHP上での通信販売の導入もご検討いただきたい。さらに、ふるさと納税返礼品についてはぜひ進めていただきたい。</p>	
	共通	補助金の獲得など、自主財源の確保に努めているか。また、それを事業展開につなげているか	・事業報告（決算書） ・モニタリング評価結果 ・参考資料1～3事業記録	<p>&lt;自主財源&gt; ミュージアムグッズ販売を中心とした自主事業収入を確保。これらの収益は、助成金やコンサート等を開催して事業の充実を図っている。また、エントランスホールの什器を製作、施設管理アドバイザー、仙川駅の地図広告の費用などにおいて、実篤記念館全体の事業展開につなげている。</p> <p>ミュージアムグッズでは、限定チョコレートが人気を得ており、広く認知度を高め、来館のきっかけとなっている。</p> <p>&lt;補助金&gt; コロナ禍の文化芸術活動を支援する文化庁の補助金を、令和2年度、3年度、4年度に交付を受けたほか、コロナ感染症拡大対策にかかわる補助金を令和3年度に受け、事業の充実、コロナ感染症拡大対策の費用に充てた。</p>	◎	◎	○	○	◎	◎		

評価の視点	評価対象施設	評価内容 <u>（★指定期間10年間としたことを踏まえた評価実施）</u>	評価材料（例）	プレゼンテーション説明内容の概要 （説明のポイント、評価してもらいたポイント等） ※事前に指定管理者が記入	評価 （◎：優れている、○：標準的 △：改善余地あり ×：抜本的な改善が必要）						コメント欄	
					A評価員	B評価員	C評価員	D評価員	E評価員	G評価員	現状において評価できる点・課題点	今後の取組の方向 （強みを伸ばす、弱みを改善する方策等）
	共通	施設の管理に、人員が適切に配置されているか	・事業計画 ・事業報告 ・モニタリング評価結果 ・参考資料7 財団組織図 ・参考資料1～3事業記録	・現在、事業、施設管理、財団運営で15名（常務理事1、常勤正職6、非常勤・嘱職職8）の職員体制で運営。 ・子どもから高齢者まで、利用者が安心、安全で快適に利用できるように適切に人員配置し、施設管理を行っている。 ・受付窓口や閲覧室のレファレンスカウンターに人員を配置し、利用者の入館や利用案内、ニーズの把握、レファレンス業務を行う。 ・毎日、職員による定期的な巡回で、利用者や施設の状況を把握する。 ・新型コロナウイルス感染症対策としての消毒作業は、職員が1日3回分担任して対応。 ・定期的な点検や点検、清掃等は業務委託を活用して施設管理を行う。 ・芸術鑑賞を業とする施設となるように努める。	◎	○	◎	◎	○	○	<評価できる点> ・経験のある職員から、中堅、経歴の浅い職員まで、バランスよく配置されている。学芸員の人数も多く、この規模の記念館としては、充実した体制である。 ・人材の確保・育成という点から、少数組織でありながら、人事評価、人事ローテーション等の取組が進められており、人材の確保・育成への意識が高く取り組まれている。 ・他施設の文化財レスキューに参加するなど、災害時の収蔵品の救出、その後の修復等の対応などを実地で経験し、万一の場合に備えている。	・ITに関するリテラシーも高く持ち合わせている印象を受けたが、人材育成計画では、ITスキルや動画制作といった記載は見受けられなかった。こうした内容も必要なスキルとして記載することが期待される。 ・スキル・ノウハウの育成・共有・継承に努めていることが随所に感じられる。この基盤を活かして人事評価制度の早期での安定運用を実現し、人材の充実に一層努めていただきたい。
	共通	指定管理期間が10年間になったことを踏まえた、長期的視点での施設の管理・運営や事業実施に関する職員のスキル向上（研修の実施や人事評価の実施状況等）に向けた取組が行われているか（★）	・事業計画 ・事業報告 ・モニタリング評価結果 ・参考資料1～3事業記録	・財団はより長期的な展望を持って事業計画に取り組み、職員が安心してスキルアップに励みながら業務に当たれるようになり、安定した財団運営や事業内容の充実につなげている。 ・事業係と総務係（学芸員資格あり）の職員を相互に異動することで、柔軟な組織運営を図り、協力体制を構築し、財団全体の事業運営を活性化させている。 ・令和4年度から、人材育成の観点から、正職員の人事評価を実施。 ・職員研修は、各業務の専門的な研修へ参加するほか、館内で課題を検討するワークショップの実施。職員全員を対象としてハラスメント研修等を実施して、スキル向上に取り組んでいる。	◎	○	◎	◎	○	△	<課題点> ・今後の人員体制を考えると、横方向だけでなく縦方向の業務や考え方の共有が必要。 ・人材育成においては、体系的な人材育成方針等により、ベテラン職員のノウハウの継承の視点を踏まえ、幅広い職員の意見も確認のうえ、計画的に取り組んで頂きたい。	
	共通	指定管理期間が10年間になったことを踏まえた、長期的視点での職員間における専門的な知識やノウハウの継承への取組が行われているか（★）	・事業計画 ・事業報告 ・モニタリング評価結果 ・参考資料1～3 事業記録	・令和3年度から長期的な視点に立った人事計画に基づいて、人員体制を新たにし、財団運営が安定的・継続的に進められるように取り組んでいる。 ・専門的な人材育成では、職員一人一人がスキルアップを図る。 ・業務を通して、ベテラン職員から若手職員へ知識や技術の継承を進める。（それぞれの業務内容や経験値を配慮して、スキルアップを図る） ・学芸員としての専門的な外部研修を受講 ・令和元年度から川崎市市民ミュージアムの文化財レスキューに参加。災害時、特に水害での収蔵品の救出、その後の修復等の対応などを実地で経験し、実篤記念館での水害対策、万一の場合の対応に備える。	◎	○	◎	◎	○	○		
	共通	修繕や点検等を適切に実施するほか、施設・設備の不具合等の早期発見、早期対応ができていくか。併せて、指定管理期間が10年間になったことを踏まえた、中長期的な視点での施設の維持保全についての取組が市と連携しながら適切に行われているか（★）	・事業計画 ・事業報告 ・モニタリング評価結果 ・参考資料1～3 事業記録	・開館から37年が経過し、施設・設備の老朽化が、指定管理を受けた時期から済み、対応件数や業務内容が増える。 ・保守・点検を実施するほか、日頃から不具合等の発見と情報の集約に心がける。 ・予算の範囲内で対応可能な場合は、早期対応。 ・費用がかかるもの、施設・設備などの改修が必要な場合は、主管理や當課編に報告、相談して連携を取り、対応している。 ・令和2年度から、財団独自に施設管理アドバイザーを委託。 ・博物館施設としての求められる要件を理解した上で、不具合の対策や修繕方法の助言、建築・設備の専門的な内容の解説、事業者への対応方法の助言を得ている。 ・アドバイザーの設置により、施設管理、維持保全の課題が整理され、中長期的な対応へとつなげており、市との情報共有も図っている。 ・平成30年度に「災害対応行動マニュアル」を策定し、全職員に周知した。その後、令和元年度に「台風・暴風雨・大雪等期間指針」、令和3年度にはBCP（事業継続計画）新型コロナウイルス感染症対策策定するなど、必要に応じて各論の充実を図っている。 ・現場の職員間でも、受付、会計、施設管理ははじめ各種マニュアルを整備し、担当者が不在であっても最低限の運営レベルが継続できるように心がけている。 ・市から引き継いだ施設管理については、財団内にノウハウが蓄積されつつあるため、可能な限り記録を残し、属人性に頼りすぎない継承に努めている。 ・さらに、水害経験のある施設として、近年の予測しがたい集中豪雨に備えるため、台風ハイシーズン中の休館日直前には外周部に止水板を立てることを習熟化させ、職員の防災意識向上にもつなげている。	◎	◎	△	◎	○	○	<評価できる点> ・非常に美観を保ちながら、資料の保存や災害対策もよく考えられている。 ・建設時期を含む中長期的な視点では、収蔵物を地下に保管しない、他の施設（図書館等）に保管するといったあり方の検討が必要となると思われる。短期的な視点としては、詳細な行動計画を策定し、定期的に蔵書避難の訓練を行う等の具体的な対応を検討する必要がある。 ・自主財源での施設管理アドバイザー導入の効果が期待。これによる成果を定量的にまとめて行政と共有し、施設管理や指定管理者制度の向上にも貢献いただきたい。	
	共通	利用者の安全対策を含む、緊急時（事故・災害・感染症）の対応策が十分検討され、マニュアルや連絡体制が整備されているか。また、定期的に訓練を実施しているか。訓練の結果、改善したものはあるか。これらの取組について、職員のみならず、関係スタッフも含めた対応が図られているか。	・事業計画 ・事業報告 ・モニタリング評価結果 ・参考資料1～3事業記録 ・参考資料8 「災害対応行動マニュアル」	・非常用設備は、定期的な点検を委託するとともに職員による目視確認を随時行い、異常事態は速やかに対応できる。 ・年に1回の自衛消防訓練では、地震と火災を想定した訓練をほぼ交互に実施している。全職員の参加を原則とし、隣接する実業公園の日常管理を委託するシルバーパートナー会にも参加を呼びかけている（コロナ禍以前は、講義消防署にも立会を依頼）。こうした機会をとらえ、普段は使い慣れない非常用設備の使い方などについて、職員と共有することを心がけている。 ・全職員が定期的に普通救命講習を受講していることから、令和3年に消防防署から団体表彰を受けた。	◎	◎	○	○	○	○		

評価の視点	評価対象施設	評価内容 <u>（★：指定期間10年としたことを踏まえた評価実施）</u>	評価材料（例）	プレゼンテーション説明内容の概要 (説明のポイント、評価してもらいたポイント等) ※事前に指定管理者が記入	評価 (◎：優れている、○：標準的 △：改善余地あり ×：根本的な改善が必要)						コメント欄	
					A評価員	B評価員	C評価員	D評価員	E評価員	G評価員	現状において評価できる点・課題点	今後の取組の方向 (強みを伸ばす、弱みを改善する方策等)
市との連携や市における施策推進への貢献	共通	災害時における市や地域等との協力体制の構築等に関する取組が行われているか	・事業報告 ・モニタリング評価結果	・令和4年度中、調布市と災害時における防災協力協定を締結できるよう準備を進めている。 ・若葉学校地区協議会の防災運営委員会として、日頃から地域との協力を図っている。	○	◎	○	○	◎	○	<評価できる点> ・財団独自に施設管理アドバイザーによる施設管理、維持保全の課題整理を行い、中長期的な対応へとつなげている。引き続き、市との適時適切な情報共有及び連携をしていただきたい。 ・全職員が定期的に普通救命講習を受講し、緊急時の対応に備えている。	・今後、市と災害時協力協定の締結した際は、協定に基づく、市との共同訓練の参加や施設管理者としてのし市への提言などの協力をしていただきたい。
	共通	施設の貸出や各事業の実施等において、市への協力や市との連携に関する取組が行われているか	・事業計画 ・事業報告 ・モニタリング評価結果 ・参考資料1～3 事業記録	・東部地域の公共施設として、市役所新任職員研修の会場としての提供や公民館事業への講師派遣などの協力を行っている。 ・調布市郷土博物館とのコラボ展示、展示品の相互貸与や、中央図書館との映画資料についての調査、情報提供等の普及・研究活動の連携をおこなっている。	○	◎	○	○	◎	○		
	共通	施設の管理運営や各事業の実施を通じて、市と基本計画における関連施策の推進に貢献できているか（★）	・調布市基本計画 ・事業計画 ・事業報告 ・モニタリング評価結果 ・参考資料1～3 事業記録	・「数回が強く、開口は広く、奥行は深く」をコンセプトに、子どもから高齢者まで、入門者から研究者のレファレンスまで幅広く対応できるように努め、調布市基本計画施策20「地域ゆかりの文化の保存と継承」に貢献している。 ・特に夏休み期間は、コロナ禍前の令和元年度以前には、恒常的に300人を超える子どもの利用者数を維持していた。コロナ禍においては激減したものの、従来の来館参加型メニューを自宅持ち帰り型に切り替えるなどして、学習機会を損ねないように努めた。	○	◎	○	○	◎	◎		
その他	共通	個人情報の保護及び情報漏洩防止のための体制は適切か	・事業計画 ・事業報告 ・モニタリング評価結果 ・参考資料1～3 事業記録	・個人情報、当該団体の「管理業務に関する個人情報保護規程」に基づき、適切に管理している。 ・マイナンバー管理台帳は鍵のかかるところに保管し、出納時は決裁をとると厳重管理を行っている。 ・調査等の事業や、感染症対策のため収集した個人情報は、目的外利用を禁止し、定期的に更新・廃棄するサイクルが構築されている。	○	○	○	○	○	○	<課題点> ・個人情報保護については、改正個人情報保護法（2022年4月施行）に基づき、適切な管理に努めていただきたい。また、定期的な研修実施など職員への周知啓発を図っていただきたい。	
	共通	地域等との連携による取組や地域貢献活動の実施内容は適切か（★）	・事業計画 ・事業報告 ・モニタリング評価結果 ・参考資料1～3 事業記録	・武蔵野地域で実施する緑の地図スタンプラリーや、調布市内の調布スマートシティデジタルスタンプラリーなど関連企画への参加により、地域との連携を深めている。 ・毎年、桐朋学園大学音楽学部によるコンサートを館内で実施しているほか、仙川商店街の商店、市内の社会福祉団体等で記念限定商品の販売を委託するなど、地域振興の一環を担っている。	○	◎	○	○	○	○		
	共通	省エネルギー、省資源等の環境へ配慮した取組が確保されているか	・事業計画 ・事業報告 ・モニタリング評価結果 ・参考資料1～3 事業記録	・空調タイマーを活用して最大需要電力を分散させることで、電力供給を逼迫しないよう、また電料金を抑えるよう工夫している。 ・さらに、展示室や収蔵庫の扉所に設置された温度湿度計を毎日目視確認することを多くの職員が習慣化しており、室温の変化も日常的に把握することで、気候が安定している時期には冷暖房に依存せず、資料保存と省エネの両立を意識した空調管理に努めている。 ・休憩コーナーにグリーンカーテンを設置し、夏場の日差しと室温の上昇緩和に一役買っている。	○	◎	○	○	○	○		

◎評価結果(評価員からの意見)を踏まえた市における課題整理 ※今後のサービス向上等に向けての指定管理者との調整における視点  
 ・分かりやすい案内によるサービス向上のほか、SNS等を活用した積極的なPRによる新たな来館者の確保及び他館連携による利用者の拡大  
 ・社会情勢やトレンドを踏まえた魅力ある事業の展開と、それに基づく幅広い利用者・収入の獲得  
 ・事業助成金の獲得やミュージアムグッズの開発・販売による自主財源確保の強化  
 ・ITスキルの向上やベテラン職員のノウハウの共有・継承を行うなど、将来を見据えた人材育成  
 ・施設の老朽化や浸水リスクを踏まえた、適切な資料の保存方法や訓練の検討・実施  
 ・教育現場との連携の取組のほか、災害時に備えた市や地域との連携の推進・充実